

東京専従通信

全日本教職員連盟
事務局次長 村松 宏晃



「オンデマンドで 気軽に動画を」

ようか。

さて、私は寒いのが苦手、冬場は特に部屋の中で暖かくして過ごしたいという気持ちになってしまっているのですが、皆様はいかがでしょう。そうでなくとも新型コロナウイルスの影響もあり、自宅で過ごす時間が増えたという方も多いと思います。

「おうち時間の過ごし方」は人それぞれかと思いますが、今は映画やテレビ番組のオンデマンド配信も随分と充実しています。自分が気になるコンテンツがあれば、クリック一つ、タップ一つで気軽に視聴できるのでとても便利です。政府が進めているデジタル化の取組の中でも「いつでも、どこでも、だれでも」がキーワードになっていますが、意外とこういった身近なところでこそデジタル化の恩恵を感じることが出来るものなのかもしれません。



先生方の研修についても、今はオンデマンド配信された研修動画等の活用がますます進んでいくかと思えます。「研修」と聞くとどうして身構えてしまう部分があるかもしれません。気がなる本をちよつと手に取る感覚で動画を視聴できるようなになれば、先生方にとっての「研修」ももっと身近なものになるかもしれません。



全日本教職員連盟YouTube
全日本教職員連盟YouTube

ちなみに全日教連のYouTubeチャンネルでも、これまで実施した教育シンポジウム等の動画をアップしています。ぜひ一度、御覧になってみてくださいね。それでは、今年も皆様にとって素晴らしい一年になりますように。

報道のフロから学ぶ



十二月十三日(月)十三時から香川県教育会館三階会議室において、鳴門教育大学の共同研究の一環として、また、鳴門教育大学大学院特命教授(名誉教授)の阪根健二様の御協力により、香川県教育文化研究所主催、香川県教職員連盟協賛による「教員向けの表現力向上対策講座」を開催することができた。

講師として、瀬戸内海放送(KSBS)アナウンサー、KSBS・FM香川アナウンサーの中村康人様をお招きして、「よい伝え方・表現力」について御指導いただいた。中村様からは、「より豊かな伝え手」になるには、まず、様々な経験を積むこと、それをどう蓄積していくのかが大切であることを述べられた。また、「伝える」ことは「発信力」、すなわち「存在感」であることとおっしゃった。

次に、「伝える」技術を磨いていくための具体的な方法も御指導してくださった。「100%をいかに維持するか」が重要だが、そう考えたら間違っているのではない、よりうまく話さなければならぬ等の意識が働き、緊張や不安が増長し、その結果、うまく表現できずに終わってしまうことが少なくないことを述べられた。

これらを解消していくためには、まず、伝えることを箇条書きにして、文末を気にせず友達に話す感覚で練習することが必要であると述べられた。例えば、今日いちばん話してみたいこと、良かったこと等を書き出し、一分程度でよいので友達に聞いてもらったり独り言でしゃべってみたりすることを習慣化するといったことである。

そして、言葉の引き出しを多く持つ、たくさん知識を得ることも重要であることも述べられた。これらは実は日常生活の中から学ぶことがほとんどで、そのことを意識して過ごすことが大切であることをおっしゃった。例えば、自分の興味のある分野(スポーツ新聞や芸能関係書物等)の記事を口に出して読むことで、より豊富な表現を知り、活用していくことができるようになる、といったことである。



その他にも、報道という「伝える」最前線で活躍されている中村様の生き方等も話していただき、大変貴重な講座となった。この場をお借りして、中村様には大変お忙しいところ時間を割いていただき長時間にわたって講演していただきまして誠にありがとうございました。また、講座の開催にあたって多大なる御尽力をいただきました阪根名誉教授に、深く感謝申し上げます。

また、声を前に押し出しはつきりとした発音をする意識を高めることも大切であると述べられた。声を前に押し出すためには、目線(顔)をできるだけ下に向けて、腹式呼吸を行いながら話すことや、はつきりと発音するために、まず単語(例えば「学校教育」)を一文一文字で切って「が・つ・こ・う・き・よ・う・い・く」声に出し、徐々にスピードを上げて一文一文字をつなげていく練習を行うことである。日々の十分五分程度でよいので、これらのことを地道に繰り返し行うことで、「話す・伝える」自信につながっていくことを御示唆いただいた。自信に続いて、「伝える」(プレゼンや面接等で)ときの心構えを、御指導いただいた。

- ① 名前から伝える気持ち
- ② 「間」の活用(最も伝えたいことの直前、間をあける(間も言葉の一部))
- ③ 言葉は必ず前に
- ④ 背伸びをしない(うまく表現してやろうという気持ちはいらない)
- ⑤ 何事もポジティブに(笑顔が増える→自他ともにプラス)
- ⑥ 緩急強弱(母音をしっかりと)

主に六ポイントについては、いつも意識しておく必要があることを述べられた。ただ、技術や心構えももちろん必要だが、最も大事なことは、「伝えたい」というひたむきな思いがなければ、どんなに言葉巧みに話しても、相手には真に伝わらないということを強く述べられた。そのひたむきな思いには、自然と表情やジェスチャーが付随し、それが結果として「豊かな伝い手」としてにじみ出てくることとおっしゃった。